

小規模校の弱みを力にかけて

本校は、小規模特認校でもあります。これまでも、本通信で、本校の子どもたちの様子を、エピソードを交え、紹介してきました。小規模校の強みとしては、教職員がより子ども個人に寄り添いながら一人一人に応じた学びの保障が提供できるよさがあります。

一方で、人数の少なさゆえの人間関係の幅や多様な考えの交流に弱みがあるのも事実です。この課題を克服するための一手法として考えられるのが、他校との交流です。

本校の6年生が、修学旅行で立石小学校の子どもたちと同部屋になり仲良くなったことを、以前お伝えしました。その後、7月の香々地青少年の家での宿泊学習の際に、前日から利用している立石小の6年生と再会し、驚きとともに声をかけ合う子どもたちの姿がありました。また、夏休み中にお祭りで再び出会う機会があった子もいたようで、子どもたち同士さらに親しくなっているようです。

夏休みも間近に迫ったころ、6年生の教室では、国語で、「読む人に説得力をもって伝わるように、構成を考えて提案する文章を書く」というねらいのもと、よりよいデジタル機器との付き合い方をテーマに取り上げ、学習したそうです。その際、2グループに分かれ、「個人情報保護」と「デジタル機器の利用時間」とに焦点をあて、グループ毎に意見文を作り上げました。

この2種類の意見文を、お互い読み合いましたが、「親しくなった立石小の6年生にも、説得力のある文章になっているか読んでもらおう」ということになったそうです。先週原稿を送付したとのことで、立石小の読後の感想や意見を楽しみにしているようです。

この他にも、青少年の家での宿泊学習(4~6年生参加)で、2日間一緒に過ごした玖珠町立八幡小学校の子どもたちが、宿泊学習後に、本校の子どもたちの姿を見てすごいと思ったことを出し合ったのだそうです。

- ・姿勢がよい
- ・声大きい
- ・話し方が丁寧
- ・てきぱきしていた
- ・原稿を見ずに、自己紹介など発表していた 等

これらの内容を、八幡小の先生が本校に教えてくださり、早速担任が子どもたちに伝えました。子どもたちは、他校の子どもたちに自分たちのことを認めてもらえて、とてもうれしそうにしていたようです。

お礼に、「八幡小のお友達に読んでもらおう」と、本校の子ども一人一人が作成した宿泊学習新聞を送る等、行事を

終えても交流がなされています。

このように、機会をとらえて他校との交流を企画し、小規模校の弱みの解消を図っていきたいと思います。

リコーダーに挑戦！

～そのやる気と前向きさが大切です～

校長室から廊下に出ると、リコーダーの音が聴こえてきました。何年生が練習をしているのだろう・・・と階段を上がると、2・3年生(複式)の教室からのようです。覗くと、3年生が練習をしています。

リコーダーは、3年生になって初めて子どもたちが出会う楽器で、これまでソ・ラ・シ・ド・レの指使いを学習してきたようです。この日、子どもたちがチャレンジしていた曲は、『猫吹いちゃった』という曲で、「ソ・ラ・シ」の3つの指使いが多く出てくる曲です。しかし、大変速いテンポの曲のため、3つの音がほとんどといっても、リコーダーを習いたての3年生にとっては、適度な難しさがあり、その分、指使いの練習になるものです。

私が教室を覗いたときは、個別練習で楽譜を見ながらゆっくり演奏をしていました。大方演奏できるようになり、「CDの伴奏に合わせてやってみる? 伴奏は速いんだけど・・・」と、先生が子どもたちに投げかけると、「速いけどやってみる!」との力強い声。

いよいよ挑戦。伴奏は私が思っていた以上のかかなり速いもので、子どもたちの指使いがなかなか追いついていきませんが、曲の途中では、一部伴奏に合わせて吹くことができています。

今はまだ十分演奏することができませんが、子どもたちの見せてくれたやる気と前向きさがあれば、すぐに演奏できるようになることは間違いありません。



先々週、低学年が芋畑の草取りを行いました。台風通過で雨が降った後とはいえ、土は固く、簡単には草が抜けません。それでもサツマイモの生長を願い、汗だくになりながら一生懸命に草取り作業を行う子どもたちの姿がありました。



後日、地域の佐藤さんが、芋畑と田の畔の草刈りをして助けてくださいました。大変ありがとうございました。